

令和5年度 第4回 川崎市社会教育委員会 青少年科学館専門部会議事録

日時 令和6年3月14日（木） 14:00～15:55

会場 青少年科学館 自然学習棟2階 学習室

出席者（敬称略）

- （1）委員 （公募市民）服部公俊（部会長）、南條邦子（副部会長）
（学識経験者）川島逸郎、山岡均、栗芝正臣
（教育職員）上野和美、高橋泉
- （2）事務局 久保館長、弘田、高中、杉浦、渡邊、内藤、齋藤、加藤（生田緑地共同事業体）
- （3）傍聴者 0人

1 開会（渡邊）※事務局による進行

事務局より開会告知、会議の成立、傍聴者受入（定員5名）、記録（録音及び筆記）、作成及び会議記録公開について周知（傍聴者なし）。

2 館長挨拶（久保館長）

本日は、御多用の中、第4回専門部会にお集まりいただきまして、ありがとうございます。

このところ生田緑地も雨の日が多く感じられておりますが、本日はとてもお天気に恵まれております。いよいよ春が本格的に訪れると、枳形山からみる景色も桜色一色になり、菖蒲園ではカエルの大合唱が始まるのかなとワクワクしております。

4月からのこの1年間、当館の事業を様々に御確認いただきましたこと、誠にありがとうございます。

本日は、1年間の当館の事業について、この専門部会において様々に評価を頂戴することとなります。どうか、忌憚のない御意見をいただき、私どもといたしましては、真摯に受け止めつつ、来年度に向けまして、それらを踏まえながら、的確に事業を遂行して参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

当館1階フロアで、環境局との連携で「かわさきの環境・100年」の展示を行っています。今まで他局の展示を行ったことがありませんでしたが、今回このような形で連携し、展示をすることとなりましたので、お時間がございましたら御覧ください。

話は変わりまして、当館の職員体制につきましても1点変更がございます。天文担当では正規職員が1名、任期付の職員が1名、会計年度任用職員が3名という体制でしたが、任期付の職員については今年の4月から正規の職員として採用されることになりました。マンパワー自体に変更はありませんが、館の運命を共にする正規の職員が2人となったことで、今後より一層の活動の充実を目指して参ります。

もう1点、今年度、プラネタリウムが誕生から100年を迎えたということもあり、天文担当では数々の新しい事業を企画・実施してまいりましたが、その功績が認められ、事業内容がかわさき教育プランの推進に貢献し、市民に誇れるものとして、川崎市教育委員会事務局においてこのたび表彰されることとなりました。

これらの取組の実施は天文担当の努力の賜物でございます。一方、私どもとしては、委員の皆さま方からも御指摘をいただいております。後ほど説明させていただきますが、職員の過大な負荷と

ならないよう、今後も様々な博物館事業のバランスを考慮しながら、適切な事業の運営に努めて参ります。

天文だけではなく、自然、科学の分野もあわせまして、これからも「市民とあゆむ宙と緑の科学館」として、第2期運営基本計画に基づく博物館事業を実施して参りたいと思いますので、本日はよろしくお願いいたします。

3 議題 ※議事進行（服部部会長）

令和5年度事業評価について

服部部会長 事務局から説明をお願いします。

渡邊 資料1 令和5年度 川崎市青少年科学館 事業進行管理・評価表を御覧ください。1枚おめくりいただきまして、当館の令和5年度の実績・自己評価、今後の課題、その右はこれを受けての委員の皆様の評価と専門部会としての公開版のイメージをまとめたものになっております。委員の皆様の評価は1枚目の裏に表としてまとめ、専門部会としての総合評価の案も記載しております。この後、各事業の評価を決め、「各委員評価」の項目を削除し、ホームページで公表いたします。令和5年度の実績・自己評価欄にあります、対応する年報のページ数については削除します。

服部部会長 事務局から「1 収集保存事業 （1）自然」の説明をお願いします。

1 収集保存事業

（1）自然

高中 ①資料収集として剥製及び標本化を行い、哺乳類12点、鳥類3点、昆虫1,110点（うち職員採集数758点）、植物698点、計1,823点を新規に作製いたしました。また、電子台帳への登録について、昆虫標本は2,063点を登録し、そのうち既存資料が2,001点、新規作製標本が62点、植物標本は698点を登録し、すべて新規作製資料でございます。

②地球規模生物多様性情報機構（GBIF）およびサイエンスミュージアムネット（S-Net）に植物の標本データ2,250点を提供いたしました。

今後の課題としては、未整理資料を計画的に整理・登録するとともに、継続的に新たな資料を作製する必要があるございます。

評価コメントの中で、電子登録されていない既存標本が残されているように見受けられ、今後の課題は電子登録されていない標本をできるだけ速やかに電子登録することと考えると御意見をいただいております。電子登録については、できる限り速やかに進めていきたいところですが、一方で新規の標本作製も進めていく必要がございます。人的資源も限られた中で、新規作製資料と既存標本の整理・登録については、どちらも偏りなく進めていくか、あるいはどちらかを優先的に進めていくかと、判断が難しいところでございますが、引き続き着実に進めて参ります。

また、年報で記載された数字の相違があると御指摘がございました。表記につきましては、事業評価と年報で、記載順が前後しておりますが、数値に違いはございません。数値については、職員分と委託分が判別できるように記載してほしいという御意見いただいていたことから、年報では当館の実績として合算値を記載しておりますが、評価の際は委託の部分と判別ができるよう記載しております。なお、昆虫については、お送りした時点で、今年度作製した標本が1,110点、そのうち62点を電子台帳に登録しており、このほか既存の資料を2,001点電子台帳に登録しております。

紀要第34号で「目録」とされた著作については、原稿の目録部分が大部分を占めていることか

ら、紀要では「目録」として区分しております。

評価につきましては、委員の皆様の御意見を踏まえ、Bといたしました。

(2) 天文

弘田 ①のプラネタリウム番組のアーカイブ化につきましては、毎月実施しているプラネタリウム一般向け番組の制作時に収集した文献資料、画像等の資料を番組素材、番組スクリプト、等の関連データとともにアーカイブとして保存し、今後の番組制作等に活かせるようにいたしました。

②の天文資料の整理保存につきましては、天文学史に関する資料の整理保管を継続して行い、富田資料の目録の公開に向けて分類整理を進めております。また、デジタルアーカイブの作成に向けて、古書資料 17 点（約 800 ページ）のデジタル化を完了しました。

プラネタリウム企画展開催に際し、プラネタリウム関連資料 13 点を新たに資料として登録いたしました。

今後の課題につきましては、委員の皆様からも御指摘がありましたが、資料の適切な分類整理と公開の方法や活用について検討する必要があります。

また、委員から古文書の誤りではないかとの御指摘がありましたが、一般的には特定の相手に対する文書で江戸時代以前のものを古文書と言うものと認識しておりますが、当館が所蔵するのは江戸時代から明治初期に出版された書物ですので、当館では古書として分類しております。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ B といたしました。

(3) 科学

杉浦 科学実験についての資料収集と保存・管理では、サイエンス教室、サイエンスワークショップなどの、館内科学系イベントで提供された計画書や報告書の管理とともに、市民団体が普及イベントを計画する際の参考資料として共有できるように、令和 5 年度サイエンスワークショップ実践事例集として冊子データにまとめました。

また、館内展示を踏まえた動画データを収集し、10 分程度の科学工作物を紹介する動画に編集しました。

今後の課題としては、委員の皆様から実践データのホームページでの公開や閲覧の明示など、御意見をいただきました点について、館職員・市民による科学普及の実践データや工作物の動画などの公開手法について引き続き、検討して参ります。デジタルサイネージをさらに活用できるように、動画等のデータ収集に取り組みます。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ、B といたしました。

収集保存事業は、以上となります。

【質疑応答】

服部部会長 事務局からの説明等について、御意見等ありますか。

川島委員 自然についてです。様々な点数を挙げられていますが、一概に、点数が多ければ良い/少ないと悪いというものでもありません。が、自己評価の文章を読んだ時に、一見して何がどうなっているのか判らないので、内容（実態）がわかるような文章表記が必要だと思います。

登録が最終の目的ではなく、台帳登録することに加えて、館収蔵の資料目録の作成やデータ

ベース化することで、この館がどのようなもの、公共的に活用される資料を持っていて、それらが公表（情報公開）され、それらが外部に利活用できる状態になっていることが大切です。台帳登録が進むに越したことはないですが、登録自体が最終的な目標ではなく、如何に整理や配架が出来ていて、それがどう公表されているかが大切です。「今年はこれを公表しました」という表明できるような、工程的な形で進められていくとよいのではないかと思います。

（この場では）今年度の紀要が配布されていませんが、（第 34 号で）「目録」とされた著作は、採集データの分量こそ非常に多いのですが、目録とされていますが、この報文の内容やその性質に鑑みれば「採集記録」と扱う方が妥当です。これまでの号でのように、館の収蔵資料目録を謳うのであれば、ある分類群を区切って（例えば科などに）それまでに収集されたものを一括してまとめたものをそう扱うべきです。紙面の大半は採集記録で多くを占められてはいるものの、本誌での著作の分類を目録としてしまうと、外部から見れば、これがそれまで科学館で収蔵されている当該分類群の標本目録と誤認されやすいことでしょう。目録と採集記録との分類が間違っているのではないかと思います。

服部部会長 他に御意見などありますか。ないようでしたら評価に進みます。

皆さんの自然分野の評価では A や C もありますが、全体の評価として B 評価でよろしいでしょうか。（特になし）B 評価 とします。天文分野に関して、御意見はありませんか。評価では A 又は B。C もありますが全体としては B でいかがでしょうか。（特になし）B 評価 とします。科学分野に関しましては A 又は B ということで若干 B が多いということで B 評価よろしいでしょうか。（特になし）B 評価 とし、収集保存事業の評価を決定します。

服部部会長 川島委員からの課題として、収集保存において期間を決めて増やすのも大切ですが、これの利用も大切ですのでその点を踏まえて進めてください。

川島委員 当館は、博物館施設としては規模が大きいわけではないですし、資料を膨大に抱えているわけではないですが、当科学館でしか持っていないコレクションもあります。館の職員が知らないで、（収蔵内容が）表に出ることもない状態です。神奈川県内の自然史資料としても、おそらくは最古の一つに属すると考えられる年代の標本や、日本全国でも当科学館にしかないものなど、誇れる資料があります。博物館としても市としても、内外に十分アピールできるものなので、今後有効に活かされることを願います。

服部部会長 では「2 展示事業」の説明をお願いします。

2 展示事業

（1）自然

高中 ①生田緑地の自然について、受付横「緑地案内ボードを活用し、日常的に観察・撮影した写真等のリアルタイムな情報発信を 2 週に 1 回の頻度で定期的に更新したほか、SNS を活用し、自然情報や展示紹介など 48 回更新いたしました。

②生田緑地の動植物を季節ごとに展示する「生田緑地の四季だより」の写真をキャプションとともに 3 回更新し、計 24 点を展示いたしました。年度内にあと 1 回更新予定でございます。また、自然分野サイエンスワークショップの題材等をピックアップコーナーにて実物資料とともに展示し、適宜更新いたしました。

今後の課題としては、自然情報を継続的に発信する必要や、展示物の更新にむけて、更新案を検討し、展示物を作製する必要がございます。

評価コメントの中で、植物の開花や渡り鳥の飛来時期など、過去と比較できる展示資料があると、気候変動等の影響などその要因を考えるきっかけとなるのではと御意見がございました。

科学館の展示物は固定の展示が多く、展示の更新が難しい部分もございますが、写真と解説文以外にも、火山灰や骨格の実物を展示することで、来館者の理解が深まるよう取り組んでおります。今後も過去と比較できる資料も含め、工夫をしながら展示事業に取り組んで参ります。

SNS 更新頻度の半減については、他の業務とのバランスから少しウェイトが下がったことに要因があると思われます。今年度はピックアップテーブルに力を入れ、写真と解説文以外にも、火山灰や骨格の実物を展示することで、来館者の理解が深まるようブラッシュアップしております。来年度は SNS の更新頻度が少しでも上がるよう取り組んで参ります。

また、移動式の展示ケースの活用についての御意見がございました。展示ケースについては、科学分野の常設展示で活用するほか、企画展を実施する際に活用しており、今年度の企画展は天文分野での実施でしたが、自然分野におきましても今後も機会をとらえて活用して参ります。

SNS での発信内容については、一般の方に動植物への興味関心を持ってもらうきっかけとして、生田緑地に来園された際の観察へと繋がるよう、わかりやすい特徴などを紹介することを心掛けております。

評価につきましては、委員の皆様の御意見を踏まえ、B といたしました。

(2) 天文

弘田 ①のプラネタリウム一般投影につきましては、毎月テーマを変えた一般向け番組を企画、制作し、投影を実施いたしました。感染症対策については、新型コロナウイルス感染症の5類移行を踏まえ段階的に緩和し、7月以降通常の定員で運用しております。

また、夏休みに開催したプラネタリウム企画展で過去の番組の人気投票を行い、上位の作品を10月の一般投影の中で紹介しました。

②の子ども向け投影については、土日、祝日等に子ども向け投影を実施しております。また、月をテーマとした新番組を制作し、来年度から一般公開予定です。

③の星空ゆうゆう散歩はベテラン解説員である元職員が講師を務め、8月を除く毎月実施し、多くの来場者を集めました。

④乳幼児向けの「ベビー&キッズアワー」はコロナ禍のため令和2年度から休止していましたが、7月以降再開し、月1～2回実施しました。

⑤学習投影は小中学校等の団体利用を受入れ、各学年や利用する学校の希望に応じて実施しました。

⑥星空自由空間では、一般団体による貸切利用が1件あり、子育てサークルを対象に、利用者の希望に合わせた投影を実施しました。

⑦天文関連展示といたしまして、プラネタリウム誕生100年に関連した企画展「プラネタリウムの舞台裏」を開催し、7,926人の来場者がありました。10月にオーロラ写真パネル展を実施しました。また、出張企画展として東海道かわさき宿交流館にてプラネタリウムに関する展示を行いました。

今後はプラネタリウムのさらなる活用が課題です。

また、委員から事業規模についての御意見をいただきましたが、今後、職員の過大な負荷とならないよう適切な運営に努めて参ります。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ A といたしました。

(3) 科学

杉浦 市民協働の科学工作展示では、教育普及イベントにおいて制作した工作物の原理や作り方を紹介する常設展示コーナーの内容 1 点と、科学館ホームページでの工作紹介を 1 点、更新しました。

展示手法として多摩区と連携した AR コンテンツでは、工作物の動画を 4 点掲出し、134 回の来館者利用がありました。6 月からは、来館者が科学工作の紹介を視聴できるように、デジタルサイネージを設置しました。

委員の皆様から、実物やデジタルサイネージの活用と様々な手法での公開に一定の評価をいただきましたが、AR コンテンツ利用改善や科学館ホームページ上の動画公開に関して御意見をいただきました。現在、科学工作の紹介 1 点をホームページにて公開していますが、今後の課題として、科学の楽しさへの興味付けになるように、科学工作を紹介する様々な動画制作に取り組み、展示内容の更新、広く一般への公開につなげて参ります。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ、B といたしました。

展示事業は、以上となります。

【質疑応答】

服部部会長 事務局からの説明等について、御意見等ありますか。

川島委員 自然分野ですが、収集と同じで、例えば SNS の回数だけの問題ではなく、その中身が大切です。情報が溢れているような時代ですが、大半はその情報の質はどうかというものも多い世の中になったと思います。そのような世の中ですから余計に、当科学館では、博物館活動（資料収集や調査研究）の中で得られた情報や調査研究成果などのオリジナルな部分を、(SNS などの) ツールを活用して発信するべきではないかと思います。

展示に関しては、(当館の常設展示では) 固定化されている設置部分が多くを占めますが、(2012 年度の) リニューアルから年数を経て、展示されている標本自体が白く焼けているものも増えてきたので、固定化されている中でも検討、改善する必要があると思います。また、固定化されているとはいえ、交換が可能な展示部分もあります。そのような状況のままでは、来館者はほったらかしにしているというイメージを持たれます。こまめな標本の交換やメンテナンスをする必要があるのではないのでしょうか。

栗芝委員 数が多ければよいというものではないですが、科学の興味の入口になるのはよいと思いますので、そういった部分で情報発信していけば、ここに集まってくる子ども達が様々な発見ができるのではないのでしょうか。

久保館長 SNS に関して御意見ありがとうございます。以前、文化庁の方との話しのなかで、インターネットで様々な情報が入手できると、じゃあ科学館として博物館として、SNS を利用して増えた情報を発信するひとつの意義としては、様々なところがデータ発信しているけれども、博物館の発信している情報というのが、やはり拠り所になるという話も伺っております。そこが 1 つ意義としてあり、自然科学に対する興味を喚起することや、日常にある科学、少し興味を持

たれている方向けにより専門的な博物館ならではの知識などを発信することが大切といったことを、色々な方の意見を伺いながら感じております。また、回数だけを指標として捉えるものではもちろんございませんし、だからといって回数の少ない多いというのはやはりどうしても評価指標としてはどこかで出てくるものだと思いますが、バランスも踏まえて、各分野とも引き続きさまざまな媒体で、正確で、より興味が持てるような形で来年度も発信して参りたいと思います。

川島委員 地域の博物館としてはどうか、そうした立ち位置の中で川崎市ではどうか、川崎市域の自然環境の現状はどうかなど、（モニタリングを見据えた）調査研究を行っていれば、当然ながら新たな知見が得られるはずで、自ずとオリジナルな科学館でしか発信できない情報も生まれてくるでしょう。特に自然分野では、そうした活かし方や発信がしやすいと思います。

服部部会長 展示で気がついたことで、以前、子ども達がどんぐりとか松ぼっくりとか直接触れるのがありましたよね。今も行っているのですか。

高中 コロナ前はタッチテーブルとして行っていましたが、現在はピックアップテーブルとしてワークショップの題材やその時期のものをピックアップして紹介するコーナーに変えております。

服部部会長 その時の気がついたのですが、明らかに表示が、子供が動かしたと思いますが、違っていました。そういうこともあるし、川島委員からもありましたが、展示物の交換の必要なものなどもあるので、時々見回って展示物の確認をよろしく願いいたします。

服部部会長 では、御意見などありますか。ないようでしたら評価に進みます。全体としての評価を決めたいと思います。展示事業の自然分野に関しましては、評価では C もありますが、全体の評価として B 評価でよろしいでしょうか。（特になし） B 評価 とします。天文分野に関しましては A 評価が多いので A 評価、科学分野に関しましては B 評価が多いので B 評価でよろしいでしょうか。（特になし）これで展示事業の評価を決定します。

服部部会長 続いて「3 調査研究事業」の説明をお願いします。

3 調査研究事業

（1）自然

高中 ①市域の生物調査では、自然系市民団体への委託事業として、生田緑地を中心に川崎市域に生息する動植物種の確認調査を実施し、これまでの採集状況を踏まえながら採集が可能な動植物については採集し、それらに適した方法により標本を作製いたしました。また継続的なモニタリングが可能な分類群については、モニタリング調査を継続いたしました。

②生田緑地の外来生物調査として、捕獲によるムネアカハラビロカマキリの個体数抑制の可能性について検証するため、ムネアカハラビロカマキリとハラビロカマキリの生息状況を継続調査し、調査結果をまとめ、紀要第 34 号で公表いたします。

今後の課題としては、①については、今後、調査結果について市民への適正な還元方法を検討する必要があります。②については、調査研究成果の向上を図るため、調査結果を踏まえ、調査を継続するとともに、川崎市域の自然に対する理解を深めるため新たな調査に実施していく必要がございます。

評価コメントの中で、①については、継続的なモニタリング調査について、調査だけを漫然と続けるのではなく、成果発出を検討してほしいと、御意見をいただいております。こちらの成果発表については、後のネットワーク事業の調査研究でも御説明させていただきますが、今年度は、「生田

緑地におけるラン科植物の記録」として市民団体と共著で公表いたします。これまでも当館紀要や市民向けの成果発表会などで成果を公表しております。

また、外部委託である上「採集が可能なものは採集」的な文脈の繰り返しで、できる事柄だけ行うと言っているに等しいとの御指摘がございました。市民団体への委託で実施している中で、分野ごとに様々に標準化しておりますので、このような表現になっております。今後の課題の中、①は教育普及事業に当たると御指摘がございましたが、今後どのように成果をまとめ公表していくかとの意味で記載しております。

②については、専門家に査読や指導を受けるべき、新たな対象も含め、査読性もない紀要に投稿するとなれば、当該分類群の専門家の指導が不可欠であると御指摘がございました。

後ほど出版事業の項目でもご説明させていただきますが、調査研究の進め方については、今後も専門家に協力してもらい研究を進める、投稿前の原稿を専門家に見てもらうなどで信頼性を十分に担保し、進めて参ります。

評価につきましては、委員の皆様の御意見を踏まえ、Bといたしました。

(2) 天文

弘田 ①川崎市域の星の見え方調査として、夏季と冬季にデジカメを使った市民参加による市内での星の見え方を調査しました。夏はより多くの市民が関心を持ち、参加できるように、ひとつの星座で1～5等星が確認できるはくちょう座の肉眼での観察を実施し、38件のデータが集まりました。肉眼での星空調査の結果につきましては紀要に公表いたします。

②太陽表面の観測を継続して行い、観測データの解析を行いました。また、木星、土星等の惑星の観測等を行いました。

今後は、より多くの市民が参画できる調査手法と告知が課題です。

委員からは成果の公表に至っていないとの御指摘がありましたが、星空調査や、前年度のものとはなりますが、月食と天王星食の観測結果を紀要34号に公表いたします。今後も観測成果等について紀要等に報告するとともに、実績として記載するようにいたします。

市民の参加による星空調査については、ホームページへの掲載など、より広く公表して参ります。また、春と秋にも実施して欲しいとの要望がございましたが、現在夏の肉眼での調査を実施しており、まずはこちらにより多くの市民の参加を促して参りたいと考えており、今後の状況を踏まえて他の季節の実施について検討して参ります。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえBといたしました。

(3) 科学

杉浦 ①市民の興味関心を高める調査研究の実施では、ワクワクドキドキ玉手箱のテーマ「飛ぶもの」の中から、体験を通じて種子の構造や多様性を学ぶキットに収納する生田緑地及び市域のタネを採取しました。科学館の学習支援として実施している地層解説を元に、学校現場での授業活用をねらい、かわさき GIGA スクール構想で活用されている端末に対応したデジタル教材（副読本ポータルサイト）となる原稿や資料を作成しました。

委員の皆様から「授業活用をふまえ、学校現場や児童生徒の扱いやすい」教材開発やノウハウ・実践例の公開について、御意見をいただきました。今後の課題としては、かわさき GIGA スクール構想による学校支援・授業活用につながるようデジタル教材の開発とともに、その効果を検証し、

紀要等での発出も視野に、科学分野の調査研究事業を進めて参ります。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ、B いたしました。

調査研究事業は、以上となります。

【質疑応答】

服部部会長 事務局からの説明等について、御意見等ありますか。

川島委員 天文分野ですが、紀要第 34 号（事前に頂いた編集途上の pdf）には、それなりの数の投稿が載っています。それらも科学館の調査研究上の実績なので、自己評価の際には、それらを掲載すべきであろうと思います。自主的な教育普及事業が非常に膨大な中での調査研究活動となり、職員の方々の労力は非常に大きかったろうと思いますし、そうした中でのせつかく成果ですから、自己評価にも記載し実績として主張するのがよいのではないのでしょうか。

自然についての説明は、何がどうなっているのか（内容が学術論文として整っていないので）よくわかりませんが、論文とするには未完成です。やはり（当該分類群あるいはその分野の）専門家を頼るしかないのではありませんか。そうした専門家に、一から指導を仰いでいくしかないと思います。一旦、出版公表されてしまえば、それは半永久的に後世に遺ってしまうので、それはすなわち恥ずべきものが遺ってしまうことと同義です。今後、調査研究の進め方や体制をどのようにするか仕切り直し、検討が必要ではないのでしょうか。

服部部会長 他に何かありますか。山岡委員いかがでしょうか。

山岡委員 紀要を見せていただいて様々な活動が掲載されていますが、紀要を見る人は少ないので、どのように発信していけるのかを、今後、検討されてはどうでしょうか。

服部部会長 他に何かありますか。

川島委員 成果物の発信ということを考えると、やはり自館で発行している紀要が真っ先に頭に浮かびますが、博物館での学芸活動（ここでは主に調査研究事業）を行う上で、専門分野に当たる学会誌、学術刊行物へ幅広く投稿するなどには普通に行われることですから、当館においても紀要のみにとらわれることなく、学芸職員は幅広く世の中に成果を公表、発信していけば評価も上がり、博物館施設としての発展にも繋がっていくのではないのでしょうか。特に天文では、実は一個人としても、非常に活発に専門分野で活動されている方々がいると思います。一個人ながらではありますが、多くの仕事をされている方もいらっしゃるの、館内部においても積極的に業績を評価しすくいあげ、館事業にも活かしていけないのでは勿体ないと思います。

服部部会長 他に何かありますか。今、言われましたように川島委員、山岡委員の御意見をぜひ生かしていただき、今後は、紀要とか特に、文書で出すときは専門家の御意見を聞かれて、まとめられた方がよろしいかと思います。

それでは、委員会の評価として皆さんの評価をまとめます。自然分野に関しましては B 評価でよろしいでしょうか。B 評価とします。天文分野に関しましては問題なければ皆さんの評価ですと B 評価が圧倒的なので B 評価としたいと思います。それから科学分野に関しましては、これも全体として B 評価ということでもよろしいでしょうか。（特になし）に委員会として評価を決定いたします。

服部部会長 続いて「4 教育普及事業」に関しまして御説明 よろしく申し上げます。

4 教育普及事業

(1) 自然

高中 ①生田緑地を会場に、植物、昆虫、地層などをテーマに参加者の興味関心を持つきっかけとなる観察会を開催いたしました。

②来館者の動植物や自然環境に対する興味関心を深められるよう、座学と観察会で学ぶ教室や、より深く自然を理解するための連続講座、博物館の役割を知らせるバックヤードツアー等を開催し、このほか自然分野のサイエンスワークショップを開催いたしました。

③新たな取組として自然サポーター研修会を実施し、自然や動植物に関心のある市民を対象に、川崎市域で自然調査や観察会を行う自然サポーター候補を募集し、養成する研修会を開催し、研修会から9名の修了生を輩出いたしました。

④地層観察では、生田緑地で地層の成り立ちについて学習するプログラムを実施いたしました。また、教員の観察コースの事前下見・相談への対応、教員の事前学習、生田緑地での観察が困難な学校向けに地層の写真や地層サンプルをまとめた学習キットの貸出しを行い、市内学校5校の利用がございました。林の観察では、生田緑地の樹林における季節ごとの動植物の観察を理科の学習の一環として実施いたしました。

⑤総合的な学習の時間支援として、生田緑地の自然等をテーマに、課題解決学習の支援を実施いたしました。

今後の課題としては、野外活動において、夏季では熱中症対策を踏まえ対応する必要があるがございます。

評価コメントの中で、観察会を雨天中止時に室内展示の解説などに切り替える御意見がございましたが、生田緑地観察会は野外での動植物の実物観察を元に組み立てており、野外と室内ではプログラムの組立てが変わることから、当日での切り替えが困難なものとなっておりますが、単独での展示の解説については、今後検討して参ります。

また、元職員・前職員の企画の継承や既定業務が多くを占め、この6年間は新企画はほぼ皆無、③は新たな試みに見えるが、以前の「自然調査員養成講座」の焼き直しであると御意見がございました。のちの、科学分野にある出前教室と学芸分野共通の新たな取組としての項目に記載がありますが、今年度、出前教室の自然分野では「コウモリ」をテーマした講座を、学芸分野共通では「夏休み そらみど♪小学生おしごと体験」として、小学生を対象にした科学館の自然分野・天文分野の学芸業務を体験する講座を新規に企画しており、この6年間では、モグラや生物多様性などの新規テーマで教室・ワークショップを企画し、開催して参りました。今年度の新規事業である自然サポーター研修会についても、講師と連絡調整しながら内容を1から組立てております。自然分野の教育普及事業の企画立案については、学芸員のみが実施しているものではなく、自然科学班の職員が、それぞれ担当するサイエンス教室等の計画書を作成し、自然科学班内で意見やアイデアを出し合い、ブラッシュアップしながら進めておりますが、今後も学芸員を中心に様々な教育普及の企画実施に取組んで参ります。

自然サポーター研修会への御指摘につきましては、今年度の研修会は、自然や動植物に関心のある市民を対象に、川崎市域で自然調査や観察会を行う自然サポーター候補を養成することを目的として実施しております。

評価につきましては、委員の皆様の御意見を踏まえ、Bといたしました。

(2) 天文

弘田 ①平日昼間にアストロテラスを公開し、モニタ上での太陽観察を実施しました。また月2回程度日曜日に「昼間の星を見る会」を開催し、太陽の他、金星や1等星など昼間に見える明るい天体の観察会を実施しました。

②夜間の天体観察会である「星を見るタベ」は事前募集により2月までに24回実施し、年度内にあと2回実施する予定です。曇天など実際の観察ができない場合もプラネタリウムでの解説を実施し、プラネタリウム内で双眼鏡を使って観察するなど、天候不良等でも楽しめるように実施しました。

③特別観望会は今年度は計画はありませんでした。

④小学生を対象に年間を通じた連続講座「プラネタリウムワークショップ」を開催し、プラネタリウムの操作体験や番組制作を通じて天文学への知識を深め、関心を高めてきました。3月24日に参加者の家族等の他、一般来館者に向けた発表会を実施する予定です。

⑤プラネタリウム発表会は、今年度新たに日本女子大学附属高等学校と連携した事業として、天文クラブ生徒によるプラネタリウムの番組制作、投影発表会を実施しました。

⑥天文講演会はプラネタリウムクリエイター大平貴之氏を講師に招き、フュージョンの仕組みや開発の経緯等についてお話しいただきました。参加者数は132人でした。

⑦天文サポーター研修会として、「星を見るタベ」等を協働で実施する天文サポーターの資質向上のため定期的に研修を実施し、学習会、天体観測の実習などを行った他、星を見るタベ参加者への配布資料の作成を毎月行い、天体観察会を充実させました。

⑧プラネタリウムを活用したイベント投影として、東京交響楽団とのコラボレーションによるプラネタリウムコンサートと、ドーム映像を活用したオーロラ上映会を開催し、多くの方に御来場いただきました。アンケートからはいずれも高い満足度が得られました。

また、元南極越冬隊員を講師に迎えた特別投影、仙台市天文台制作の震災特別番組の上映会、ウクライナのプラネタリウム解説員による特別投影を初めて実施しました。

⑨かわさき星空ウォッチングでは、学校等の依頼を受けてアストロカーによる出張観望会を年間で14回実施し、延べ1,714人が参加しました。なお、主催者に感染症対策への協力をお願いした上で対応しました。

⑩天文分野のサイエンス教室は、日時計の工作や夜間の天体観察、プラネタリウムバックヤードツアーなどを年間で8回開催し、延べ73人が参加しました。

今後はSNS等を活用したオンラインの教育普及事業の充実が課題です。

展示事業でもご指摘いただいておりますが、今後、職員の過大な負荷とならないよう適切な運営に努めて参ります。また、アストロテラスにつきましては、来年度から夜間一般公開を行い、定員を設けずに当日自由参加できるようになり、より広い方々に参加いただけるようになることから、多くの方に参加いただけるよう告知して参ります。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえAといたしました。

(3) 科学

杉浦 ①ワクワクドキドキ玉手箱・出前科学実験教室では、実験キット「ワクワクドキドキ玉手箱」を活用した出前科学実験教室を科学市民団体との協働にて実施しました。1月末時点で、37回実施し、計1,134人の利用がありました。

②サイエンス教室、③サイエンスワークショップでは、小学生から大人まで、様々な年代を対象とした科学分野のサイエンス教室を年間 32 回、サイエンスワークショップを 64 回開催し、累計約 3,000 人を超える利用がありました。各科学講座では新型コロナウイルス感染症の 5 類移行に伴い、定員数の上限を増員し、当日参加型イベントは先着順による入替制にして利用機会の増加に努めました。

④第 18 回かわさきサイエンスチャレンジでは、8 月 5・6 日の 2 日間に出展し、科学館主催のワークショップやサイエンスショーに計 903 名の小学生と保護者が利用しました。

⑤科学サポーター研修会では、館内イベントであるサイエンス教室やワークショップを実践の場とした研修会を開催しました。令和 5 年度は研修会から 11 名の修了生を輩出することができました。

⑥子ども創意くふう教室では、小中学生を対象とした連続講座として 12 月から 1 月にかけての 5 回シリーズで開催し、延べ 59 人が参加しました。

⑦出前教室では、自然分野の学芸職員に出前教室の依頼が 2 件あり、市外図書館と市内市民館にて出張講話を実施しました。

⑧学校支援のゆうゆう広場科学実験教室では、川崎市適応指導教室との連携による科学実験教室を年間 24 回開催しました。

⑨かわさき GIGA スクール構想での学校支援として、授業活用をふまえたデジタル教材の資料データの作成を進めました。

学芸分野共通の新たな取組として、⑩「夏休み そらみど♪小学生おしごと体験」では小学生を対象として、科学館の自然・天文分野の学芸業務を体験する講座を 8 月に開催しました。

委員の皆様から様々な年代への取組・事業に対して、一定の評価をいただきました。「中学生や青少年への取組拡大」「継続した事業のアップデート」の御意見をいただきました。主要な来館者層を踏まえながらも、中高生等の若い世代へのアプローチを検討して参ります。

今後は、市民協働の教育普及事業を継続し、今日的な課題として環境教育に関連した内容や、御意見をいただいた若い世代への手立てなど、取組の幅を広げていくことを課題とします。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ、B といたしました。

(4) 出版事業

高中 ①川崎市青少年科学館紀要第 34 号への投稿について HP 等で周知し、投稿原稿を著者と連絡調整しながら確認・編集を行い、刊行いたしました。また、紀要への査読制導入については、他館の導入状況を参考に検討を重ね、川崎市青少年科学館紀要には査読制を導入しないが、専門家に協力してもらい研究を進める、投稿前の原稿を専門家に見てもらうなどで信頼性を十分に担保していくことで実施して参ります。

②展示図録の刊行として、企画展「誕生 100 年 プラネタリウムの舞台裏」の開催時に図録を刊行し、来場者に配付いたしました。

今後の課題は、紙媒体での刊行を終了し、デジタルのみでの情報公開の推進でございます。

評価コメントの中で、他館がどうあれ、自律的な現状認識と判断との下に採用すべきもの、査読制を導入しない理由が明らかになると良いとの御意見がございました。

当館の紀要の刊行目的は、川崎市の自然に関する情報を発信することであり、原著論文に限るものではなく、市民も投稿できることで、幅広い分野の情報を発信できることがメリットでございます。

す。また、査読を導入した際、市民からの投稿についても査読制の導入によって敷居が高いと感じた市民が投稿を躊躇し、市民からの投稿も減ると思われます。当館の紀要の刊行目的や査読制を導入した場合の投稿数の減少を踏まえると、査読制は導入せず、投稿者が事前に専門家に指導してもらい研究を進める、原稿を投稿する前に専門家に見てもらうなどで信頼性を担保できると考えております。

図録につきましては、お時間をいただきましたが現在ホームページに公開しております。文責については今後、刊行物の作成にあたり必要に応じて執筆者の記載等にも配慮して参ります。

評価につきましては、委員の皆様の御意見を踏まえ、Bといたしました。

教育普及事業は、以上となります。

【質疑応答】

服部部会長 事務局からの説明等について、御意見等ありますか。

川島委員 自然について、当館の歴史として、長い間学芸員が不在だったため、市民団体にお金を払って業務委託という形で頼らざるをえなかったわけですが、そこから徐々に専門家を配置しなければダメだという意識が職員間でも生まれてきて、庁内で学芸事業ができる人材を募ることから始まり、任期付き学芸員の配置にこぎつけ、ようやく30年を経て（任期なし）学芸員が配置されたのが今現在です。現状ですと、いまだに委託に依存というか、むしろ全体的にその傾向が逆行しているように感じられるので、今後、どのように主体的に仕事をされていくのが課題ではないでしょうか。サポーター研修でも、よく見ると講師があらかた市民団体となっています。先ほどの教育普及事業でも、自然担当の皆さんとやっているとのことでしたが、学芸員が配置されたわけですから、やはりそれは専門家である学芸員がもっとリーダーシップを発揮していくべきだと思います。例えば、自然分野では、（一般事務職員あるいは会計年度任用職員からなる）自然担当を差配、リードして方向性の指針を示していくことも必要不可欠になるでしょう。みんなでやっていますということではなく、専門職としての役割の果たし方が不足してきているのではないのでしょうか。

紀要ですが、（査読制を導入しないことの理由として）以前から「市民に開かれているから」と言われていましたが、指摘しているのは査読制ありきということではなく、館内の紀要とはいえ学術刊行物であり、市民のみならず広く世の中に開かれ公表され利活用されるという公共的責務からも、一定のクオリティーは担保されていないとまらないものです。市民に開かれているからとないがしろにしてよいわけはなく、雑誌の体をなされていないとかそういうことにはなりません（投稿する一般市民にせよ、自らが手掛ける論文、報文が質の高いものに結実することこそ望まれるのではないのでしょうか）。

紀要第34号の編集途上のPDFを拝見しました。刊行物には、編集にせよ、学術的な報文としての決まりごとにせよ様々なルールがあり、多くの経験や勉強を含め、それらを踏まえていなければ、一見雑誌のようだけれども、実は非常におかしなものになってしまいます（そして、現におかしなものになっています）。これは、私の立場でもどうしたらよいのか分かりませんが、本格的な仕切り直しといいですか、雑誌としてまともなものにしてゆくにはどうしたらよいか、考えていったほうがよいと思います。そうでなければ、今後も非常に恥ずかしいものを出し続けることになってしまいます。例えば文頭、英文タイトルだけを取っても、中高生の知

識でも直せる程のものが並んでいます。そうした細かな事ごとにせよ、編集担当の力量として形に遺ってしまうので、書誌の刊行に当たっては、今後、よくよく勉強して行かれるべきでしょう。

服部部会長 川島委員、貴重な御意見ありがとうございます。他にありますか。

上野委員 教育普及ということで、学校支援という観点から、科学館の取組みが、児童生徒にどのような成果があるのかというところをお伝えするのが、学校として参加している役目かと思いますので、お話しさせていただきます。まず、私たちは学習指導要領に沿って授業を展開していて、その学びの一つとして科学館を利用させていただいています。その中で、ここ数年感じるのが、学習指導要領をベースにしてプログラムを組んでくださっているということ、子どもたちと来て感じています。学校で勉強したこと、教科書や映像での学習が中心になりますが、この科学館に来て、地層もそうですが、実物に触れるということを通してによってやはり、本当に教室では得られない大きなものを得ているという風に感じています。知識・理解・思考力の育成の助けになるだけでなく、空間的な広がりや時間的なものの見方というのは、やはりここに来て学べるということが非常にありがたいと思っています。と、同時にそこだけではなく、例えば、プラネタリウムのプログラムを見ても、学習指導要領の中だけでは子どもたちの関心というのは高まらないわけで、科学館の役割としてやはり自然科学への関心を高めるという役割を本当に果たしていただいているなという風に感じています。子どもたちの反応はずっと続いて、教室でも次の日もプラネタリウムの話、地層の話をしているという状況を考えると、川崎市の中であって、特に私の学校は南部の方にあり、星空というのをほとんど見上げるという習慣すらない中で科学館の果たす役割は大きいというのを感じています。また、今回、アストロカーによる「星を見る夕べ」に来ていただきました。空を見上げるという体験を、自分の住んでいる地域でできるということは素晴らしいと思います。夜の活動であり、準備等を含めて本当に大変かと思いますが、地域の学校だけではなく、地域の町内会など、色々なところもそこに参加していくと思いますので今後も継続していただければ本当にありがたいと思っています。

服部部会長 ありがとうございます。他にありますか。

高橋委員 中学校の方では、科学館に赴いてということは難しいですが、最近では地層関係のキットをお借りして興味深くやっています。また、新任教員の研修として利用させていただいており、コロナで実際に体験したりすることがなく、映像などで終わらせてしまう場面も教育現場では増えてきました。そういった中で、それを担う教員自身が、実際に触れたり、体験したりということがやはり大事であるということで、科学館で学ばせていただいております。また、中学校のところでもまた教員も含めて利用の方法など検討させていただきたいと思っております。地域の教育会議等でアストロカーについて、興味深いなどの話題も出ましたので、学校を通しての地域や市民のところにも話を進められればと感じております。

服部部会長 ありがとうございます。他に御意見ありますか。

久保館長 御意見いただきありがとうございます。アストロカーについて説明させていただきますと、地域のいろんな様々な子どもを含め、団体さんに星空の実物を見ていただいて、望遠鏡でも覗いてもらって、実際の星を観察するというイベントになっております。あれだけの口径を持った望遠鏡を直接覗くという機会もなかなかないということと、望遠鏡を使ってみることで、はっきりと土星の輪っかが、生で、リアルタイムで見られたり、木星の縞模様が見られ

たりということで、アンケートなどを拝見しますと、手前味噌で恐縮ですが、ベタ褒めです。それぐらい非常に、市民の方々に親しんでいただいているものだと思います。

難点として天気に左右されてしまいます。従来であれば、天候が曇天だったり、雨だったりした場合は、ちょっと残念だけど中止という形を主に取らざるを得ませんでした。今年度は、特に、その場合でも星を見ることができるようということで、大平氏が作ったメガスタークラスという当館所有の移動式のプラネタリウムを利用して、暗くできるような部屋、例えば理科室など遮光できるような部屋が用意できるのであれば、プラネタリウムをその場で投影して雨で中止ということではなく、ちょっと星に別の形で親しんでもらうという取り組みを行うようにしております。南部の川崎駅近くの臨海部の方でも星空ウォッチングというものを環境局と連携して取り組んでおります。こちらは定員が50人のところを1000人以上の御応募をいただいている、川崎南部で非常に需要の高さというか、ニーズが読み取れます。昨年も今年も倍率はそうでしたが、ちょっと天気があまり良くないということで望遠鏡を使って羽田空港や飛行機、スカイツリーなど景色を見ることがとなりましたが、できない時はできないなりに様々な工夫を凝らしながら様々なニーズに応えていきたと思っています。

服部部会長 ありがとうございます。教室でやるプラネタリウムはどのくらいの広さですか。

弘田 この会場くらいです。

服部部会長 わかりました。御意見、よろしいですか。

それでは評価を決めていきたいと思います。自然分野ですが、AやCの評価もありますが、B評価でよろしいでしょうか。（特になし）それから天文分野ですが、皆さんA評価が多かったのでA評価ということでもよろしいですか。（特になし）科学分野ですけれどもA又はB評価。全体としてB評価でよろしいでしょうか。

山岡委員 科学ですが、評価はA・B同数で、B評価の方のなかでもA評価でもよいのではないかとの記述もあることから、全体としてもA評価としてはいかがでしょうか。

服部部会長 全体としてA評価とのご意見ですがいかがでしょうか。（特になし）それでは科学分野はA評価にしたいと思います。まあ、A評価にしましたので頑張ってくださいということです。

それから出版に関しましては、B・A・C評価とありますが、全体としてはB評価ということでもよろしいでしょうか。（特になし）ではB評価とします。これで教育普及の評価を決定します。

委員の方からの御意見もありましたので、今後の課題として取り組んでいただければと思います。

服部部会長 では「5 ネットワーク事業」の説明をお願いします。

5 ネットワーク事業

（1）展示・企画

杉浦 ①神奈川リレー科学実験教室では、神奈川県立青少年センターと協働し、「かながわりレー科学教室」を7月に開催しました。連携先とは、科学イベントの運営方法や市民ボランティアの活用について検討・共有しました。

②FIELD MUSEUM 展では、専修大学ネットワーク情報学部コンテンツデザインプログラムを専攻する学生と協働し、「FIELD MUSEUM 展：親子で楽しく学べるカガクおもちゃのデザイン

展」を開催しました。学生主体による9つのワークショップを屋内外で展開し、当日は約300名の利用がありました。

③川崎市臨海部企画展示は、川崎市臨海本部事業推進部との事業の見直しに伴い、令和5年度の開催は見送りました。

④市制100周年記念プレ事業「かわさきの環境・100年」では、市環境局地域環境共創課と連携して、川崎の発展と環境の歴史を振り返り未来を考える契機となることを趣旨とした企画展「かわさきの環境・100年」を3月5日から開催しています。

今後の課題としては、様々な主体と連携する中で、委員の方々からいただいた御意見のとおり、事業の魅力を広げ、さらに利用者増となる広報等、周知につながる手立てが必要と考えています。

また、当館の主幹事業との業務バランスを見直しつつ、新たな連携事業の成果の公開を含め、進めて参ります。

評価につきましては委員の皆様の御意見をふまえ、Bといたしました。

(2) 調査研究・収集保存

高中 これまでの調査結果をまとめ、「特定非営利活動法人かわさき自然調査団」と協働で「川崎市高津区で採集されたナチシダ」、「多摩川ワンドにおける希少植物の記録について」及び「生田緑地のラン科植物の記録」を紀要第34号で公表いたします。また、調査研究事業のムネアカハラビロカマキリ調査では、神奈川県立生命の星・地球博物館の昆虫を専門とする学芸員に御助言をいただき調査結果をまとめ、紀要第34号で公表いたします。

今後の課題としては、他の博物館等と連携し、それぞれが持つ専門性を活かした事業の推進が必要でございます。

評価コメントの中で、委託関係にもある市民団体の仕事に乗っただけにも受け取れる、執筆を指導したとの理由だけであれば、共著者になるべきではないとの御意見がございました。共著の原稿については、執筆指導の域に留まらず、職員もデータ整理から本文の執筆まで行っております。

評価につきましては、委員の皆様の御意見を踏まえ、Bといたしました。

(3) 学習支援

杉浦 ①職場体験・職業インタビューでは、県立高校インターンシップ5名及び市内中学校20校107名を受け入れました。参加した生徒による常設展示のポップ作りなど、来館者へ発信する体験学習に取り組みました。

②中学校連合文化祭開催では、理科部門は、今年度の北部会場として協力しました。プラネタリウム鑑賞、研究発表・表彰式への会場協力を行い、当日は86名の生徒・教員が参加しました。

③教員・職員等研修の受入れでは、川崎市総合教育センター共催での臨地研修会や横浜国立大学との連携で現職教員によるCST養成講座を実施しました。また、2週間の博物館実習を実施し、10名の大学生を受け入れました。

④川崎市小・中学校理科優秀作品展では、市内小学校の科学作品展と連携した「川崎市小学校理科優秀作品展」を12月に、中学校理科部会と連携した「川崎市中学校理科優秀作品展」を1月に開催しました。館内壁面を利用し、小学校7作品、中学校8作品を展示しました。

今後の課題としては、職場体験での生徒の活動について展示と連携して、さらに発信できるように進めて参ります。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ、Bといたしました。

(4) 地域振興・生田緑地内

弘田 ①図書館、区役所等との共催事業といたしまして、多摩図書館と連携したプラネタリウムでのお話し会を実施し、123 人が参加しました。多摩区民祭では市民団体による特別投影を実施いたしました。

②大学、地域団体等との共催事業として、川崎天文同好会共催の天文講演会を国立天文台等から講師を招いて開催し、81 人が参加しました。

③生田緑地ミュージアムとして 9 月にお月見フェスタを実施し、お月見プラネタリウムとして、中秋の名月について子どもから大人まで観覧いただける番組を投影しました。

④日本民家園との連携事業として 7 月に七夕体験を実施し、科学館ではプラネタリウムでの子ども向け七夕投影、短冊の配布を行い、民家園では七夕飾りつけ体験とミニ笹配布を実施しました。また、「お月見」では共同制作による動画の公開、両施設学芸職員による民家園でのお月見トーク、夜間のお月見プラネタリウムを実施しました。

⑤各館の広報担当者による定期的な広報会議において情報共有を図り、当館及び生田緑地全体の魅力向上及び情報発信を行いました。

回遊性向上については、子どもたちの夏休みに合わせ、生田緑地内施設 3 館、藤子・F・不二雄ミュージアム、多摩区行政サービスコーナーと連携しスタンプラリーを実施し、科学館ではスタンプの台紙を 1,857 枚、3 か所のスタンプでもらえるクリアファイルを 678 枚配布しました。スタンプラリー全体の参加者は、13,342 名、3 か所達成者は 4,985 名となっております。

⑥非日常のにぎわいイベント「登戸・遊園 ミライノバ ハレの日」では、登戸・遊園エリアの関係団体等で構成する実行委員会の主催イベントに出展し、当日は科学館職員によるワークショップを 191 名の市民が利用しました。

委員の皆様からは、新たな博物館法で重視されている地域連携・まちづくりへの貢献となるよう連携を深めていくことと、主幹事業とのバランスを考えることに、御意見をいただきました。委員の御助言をふまえ、今後の課題としては、緑地内の回遊性や地域の活性化のため、緊密な連携により各施設や団体の特徴をより活かした事業の推進が必要であると考えています。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえ、Bといたしました。

ネットワーク事業は、以上となります。

【質疑応答】

服部部会長 事務局からの説明等について、御意見等ありますか。

川島委員 (2)調査研究・収集保存ですが、植物や昆虫について報告がされていますが、これは委託している市民団体との協働となっていますが、これはおそらくお金を払って業務委託している部分に入るのではないのでしょうか？ そこに唯一の、学芸員として俸給をいただいている職員がそこに共著といった形で入るのは考え難いのではないのでしょうか。委託の部分と市職員の業務との間に、すみ分けというか線引きははっきり見極めているのですか。

紀要第 34 号での原稿の中身でいうと、例えばフィールドワークでの採集など根幹の仕事は市民によって行われ、市職員が担っている形跡はありません。報文の指導とは申せ、タイトル

に記録とあるが肝心のデータが欠落しているなど、専門家による指導がなされているとは言えません。この報文では、ただ植物の名前を挙げて紹介しているだけにすぎません。記録という報文の体裁になっていないので、リード文の作成も厳しいのではないかと思います。

昆虫の専門家の件ですが、知り合いだったためたまたま聞いたのですが、今年は多忙なため電話で断ったと言っていました。原稿も読んでいないと聞いたので、評価に挙げるような文章ではないのではないのでしょうか。

高中 昆虫の専門家の件ですが、原稿をお送りいたしまして、原稿のコメント付きでお戻しいただいております。ですので、原稿内の謝辞の部分にお名前を載せて助言をいただいたということについても先方からは御了承いただいているところでございますので、このような記載となっております。

川島委員 その方は自然保全活動でも著名な方で、全国的に活動を展開していて様々な調査や活動をされています。当該外来種についての県内での事例報告も書かれていますが、生田緑地の中を歩いて、見つけ取りで個体数を抑制できるかということを知ったら、(この種の生態的な特性を踏まえて) おそらく不可能と言うでしょう。私が想像でいうのもなんですが、きわめて忙しい方なので、原稿の内容に至るまでたいして見ていないのではないかと思います。やはり、ここはカマキリの専門家で以前紹介した方、加えて外来性カマキリ問題の専門家ですから、そういった方にきちんと指導してもらうことが必要だと思います。

服部部会長 はい ありがとうございます。他に、御意見ありますか。

上野委員 学習支援ネットワークのところですが、学校現場の意識としては、本当にありがたい限りです。実際の児童生徒に対してのアプローチもそうですし、ここにある横浜国大の CST サイエンスティーチャー養成講座、その他にも研究会を川崎市教員がそこに参加できるような研修会の実施など非常にありがたいなと思っております。全体評価が B になっているが、現場の意見としてはここは A でもよいのではないかと感じています。

服部部会長 他に御意見よろしいでしょうか。ないようでしたら、専門部会の評価を決めていきたいと思います。まずネットワーク事業の展示・企画につきましては、全体として B 評価でよろしいでしょうか。(特になし) B 評価とします。次の調査研究・収集保存ですが、B 評価ということでよろしいでしょうか。(特になし) B 評価とします。次に学習支援ですが、これに関しまして B のちょっと上という全体の評価になっています。いかがですか、全体としては B 評価。いかがでしょうか。(特になし) B 評価とします。

A 評価ですと来年度さらに上を目指すとなるとさらに大変になると思いますので B 評価とします。

それでは地域振興・生田緑地内ですが、これに関しましては、これも B と A 混ざっておりますが、全体として B 評価でよろしいでしょうか。(特になし) B 評価とします。ネットワーク事業の評価を決定しました。

服部部会長 それでは引き続き、御説明をよろしくお願いします

6 管理運営

(1) 管理運営

渡邊 ①管理業務ですが、今年度は第3期指定管理の1年目にあたっています。指定管理者は第2期と同じ生田緑地共同事業体です。5月に新型コロナウイルス感染症が5類移行したのに伴い各事

業の定員が増えている中、市と指定管理者が連携し円滑な事業運営を行いました。

②危機管理ですが、市職員、指定管理者、ショップ及びカフェの関係者が参加し、9月に消火・避難訓練を行い、3月1日には防災訓練（地震・火災）として、アストロテラスにある避難器具の使い方のレクチャー、消火器での消火訓練、通報訓練を行いました。また、有資格者による消防設備点検のほか、市職員も館内防災点検表により毎月点検・報告を適切に行っています。また、能登半島地震を受け、災害時の連絡体制を見直しました。

③進行管理ですが、事業計画、中間報告、事業視察、それからこれは本日ですが、事業報告等のため年4回専門部会を開催し、当館事業の進行管理を適切に行いました。また、その際、これまでの指導・助言等を踏まえた上で、資料等において的確に報告・情報提供を行うことで事業報告等を円滑に行いました。

今後の課題といたしましては、令和6年度は市制100周年の年であり、緑化フェアも開催され、生田緑地も会場となることから、通常とは異なる運営を行うことも予想されるため、指定管理者と密接に連携を取りながら、それらの対応も含め円滑な館運営を行っていく必要があると考えております。

御意見をいただきました、被災時対応マニュアルにつきましては、大まかなイメージで作成はしており、現在内容を精査しているところです。今後、他施設の取組を参考にしながら精度を高めて参ります。

また、業務モニタリングにつきましては、定期的に行っている会議などを通じて、様々な業務が適切に配分されるよう調整して参ります。

評価につきましては委員の皆様の御意見を踏まえBといたしました。

（2）科学館の魅力を高めるサービス展開

渡邊 ①広報計画ですが、市内小学生全家庭へ配布した科学館だより、ウェブアクセシビリティに対応し利用者が情報にアクセスし易い構成にしたホームページ、X(旧 Twitter) や Facebook 等による情報発信を積極的に行い、X のフォロワー数を 360 以上増やすことができました。また、毎月の学芸職員のラジオ番組出演のほか、新聞、雑誌、テレビ、ラジオの取材に積極的に協力し、幅広く広報活動を行いました。

そのうちホームページではコロナ禍に引き続き、家庭でも科学館の魅力に触れてもらえるよう「おうちで楽しむデジタル科学館」のコンテンツを追加しながら公開しています。

また、自然観察テラスに、近くを通る人にここが科学館であることがわかるよう横断幕を設置したほか、同じ場所で講座参加者募集の掲示も行いました。

②魅力を高めるサービス展開につきましては、利用者からの御意見等に迅速に対応しつつ、適切な案内及び接遇を行うほか、学芸部門の職員によるレファレンス対応などにより、館全体の魅力向上を図りました。また、10月からはプラネタリウム観覧料のクレジットカード対応を開始し、来館者の利便性を図りました。

③多様な利用者への配慮につきましては、バリアフリー関連設備・用具、表示の保全や、研修等による人的支援の充実を図るとともに、英語・中国語・韓国語の館内案内を用意し外国人来館者への利便性向上を図りました。また、プラネタリウムでは新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、ヒアリンググループ受信機の貸出を再開しました。

今後の課題といたしましては、より効果的な広報の方法を模索し、当館の魅力を積極的に発信していくことだと考えております。

御意見をいただきました、実験教室の当日参加につきましては、受付方法などの課題がある中で、業務量も考慮すると実施は難しいものと考えております。

科学館だよりの配布に関しましては、次号から、科学館だより自体を見やすく A3 にリニューアルする予定となっております。配布先につきましては、市内にとどまらず、小田急線の駅の構内に配架させていただいているところです。また、タッチポイントのチャンネルを増やすということにつきましては、インスタグラムなどのアカウントを追加できるよう、広報関係部署と調整して参ります。

学芸部門につきましては、先ほどいただきました御意見等を踏まえ、科学館の魅力の向上につながるよう、事業を展開して参ります。

評価としましては委員の皆様の御意見を踏まえ B といたしました。

管理運営は、以上でございます。

【質疑応答】

服部部会長 事務局からの説明等について、御意見等ありますか。

山岡委員 質問ですが、当館の所蔵物品のなかに貴重資料や文化財はどのくらいありますか。国立天文台には国の重要文化財 2 件と登録有形文化財 10 件あり、毎年、文化財防火デーには消防訓練などを受けていますが、科学館ではいかがでしょうか。

高中 当館では、展示室に展示されているアケボノゾウの臼歯が該当します。毎年消防点検を受けています。

山岡委員 ありがとうございます。引き続き適正な保全に努めてください。

川島委員 今、話にありましたアケボノゾウの臼歯ですが、川崎市の重要天然記念物でしたか、そういった側面もありますが、現在はアケボノゾウのシノニムになっていますが、分類学的にカントウゾウが新種記載されたときのタイプ（基準）標本（＊国際動物命名規約第 4 版での担名タイプ）です。そうした経緯で、現時点ではカントウゾウとの種小名（*kwantoensis*）は消えています。分類学的にはカントウゾウのホロタイプということです。その分類群（ここでは種）のただ 1 個の基準標本であり、理念上、国際的にも安全かつ恒久的な保管を信託されているものなので、（川崎市は）そういった意識は持たれた方がよいと思います。そうした物事を理解している他から見ると、「ホロタイプを常設展示しているのか（大丈夫か）？」と、驚きをもって見られるでしょう。文化財に指定されているということだけではなく、資料がもつ価値やトピック、背景などを含めた意識は持たれた方がよいと思います。

服部部会長 貴重な資料もありますので、しっかりと保存していただきたいと思います。他にありますか。

コロナ禍でなかなか難しい面もありましたが、徐々に定員を増やし、入館者数も増えてきて、これから良い方向に向かっていければと思います。

それでは評価を決めていきたいと思います。管理運営ですが、全体として B 評価でよろしいでしょうか。（特になし） B 評価とします。次の調査研究・収集保存ですが、B 評価ということでもよろしいでしょうか。（特になし） B 評価とします。次に科学館の魅力を高めるサ

ービス展開ですが、これに関しまして全体の評価 B・A、C もあるが、全体としては B 評価。
いかがでしょうか。(特になし) B 評価とします。
以上で管理運営評価を決定しました。

服部部会長 以上で令和 5 年度の事業評価を終わります。では、事務局に進行を戻します。

4 報告事項

渡邊 12 月に行いました、各委員の事業視察の結果について資料 2「令和 5 年度第 3 回 青少年科学館専門部会 委員視察報告」に一覧でまとめております。今年度は 6 名の委員の皆様に普段の科学館の事業をごらんいただき、貴重なご意見をいただくことができました。ありがとうございます。他の委員の報告として、後程御覧頂ければと思います。

5 閉会（渡邊）

服部部会長、議事進行ありがとうございました。また、委員の皆さまも御助言ありがとうございました。

以上を持ちまして、第 4 回専門部会を閉会いたします。